

機能性塗料・コーティング特集

造している。通常の塗料と違い、導電塗料は、アースの役割を果たすことで電気を逃がす効果がある。透明性の高い導電塗料の需要は30~40年前からあったが、顧客の「半導体の製造、検査装置の帯電防止をクリアー塗装で実現できないか」との相談から製品開発に着手。過去の塗料開発で培った製造技術で試行錯誤しながら製品化を実現した。

「帯電防止塗料は金属酸化物を使っているため、着色塗料と違い透明性の高い塗膜は曇りや白濁することがあるため、透明にするのが難しかった。例えばゲーム機器やIT関連など半導体を使用するさまざまな用途での使用が期待できる」(篠原社長)と自信を示す。

同社は今後、同品の拡販、認知向上と同時に導電塗料の使用方法についても分析を進めていく。「導電塗料はまだ使用方法がクローズになっていることも多く、我々でも思いがけない使い方方をされている場合もある。それを分析することで更なる製品開発に生かしていきたい」(篠原社長)と積極的に展開していく意向。

帯電防止、 クリアー塗膜で実現 江戸川合成

江戸川合成は4月にプラスチック用のクリアー帯電防止塗料「エレアースクリアーEAC」を市場投入した。

同品は導電塗料の透明性を高めることで外観を損なわず帯電防止機能を付与できるのが最大の特徴。全光線透過率は93%(1μm)、88%(2μm)と高い性能を保持する。帯電を防止し、電気を逃がすことで静電気のスパークによる電子機器のエラー、誤作動、ノイズの発生などを防止する効果を発揮する。主にポリカーボネートやアクリル樹脂、ABSなど幅広いプラスチック製品に高い密着性を有する。

同社では帯電防止塗料や電磁波シールド塗料など機能に特化した製品を製



造している。通常の塗料と違い、導電塗料は、アースの役割を果たすことで電気を逃がす効果がある。透明性の高い導電塗料の需要は30~40年前からあったが、顧客の「半導体の製造、検査装置の帯電防止をクリアー塗装で実現できないか」との相談から製品開発に着手。過去の塗料開発で培った製造技術で試行錯誤しながら製品化を実現した。

「帯電防止塗料は金属酸化物を使っているため、着色塗料と違い透明性の高い塗膜は曇りや白濁することがあるため、透明にするのが難しかった。例えばゲーム機器やIT関連など半導体を使用するさまざまな用途での使用が期待できる」(篠原社長)と自信を示す。

同社は今後、同品の拡販、認知向上と同時に導電塗料の使用方法についても分析を進めていく。「導電塗料はまだ使用方法がクローズになっていることも多く、我々でも思いがけない使い方方をされている場合もある。それを分析することで更なる製品開発に生かしていきたい」(篠原社長)と積極的に展開していく意向。

造している。通常の塗料と違い、導電塗料は、アースの役割を果たすことで電気を逃がす効果がある。透明性の高い導電塗料の需要は30~40年前からあったが、顧客の「半導体の製造、検査装置の帯電防止をクリアー塗装で実現できないか」との相談から製品開発に着手。過去の塗料開発で培った製造技術で試行錯誤しながら製品化を実現した。

「帯電防止塗料は金属酸化物を使っているため、着色塗料と違い透明性の高い塗膜は曇りや白濁することがあるため、透明にするのが難しかった。例えばゲーム機器やIT関連など半導体を使用するさまざまな用途での使用が期待できる」(篠原社長)と自信を示す。

同社は今後、同品の拡販、認知向上と同時に導電塗料の使用方法についても分析を進めていく。「導電塗料はまだ使用方法がクローズになっていることも多く、我々でも思いがけない使い方方をされている場合もある。それを分析することで更なる製品開発に生かしていきたい」(篠原社長)と積極的に展開していく意向。

同社は今後、同品の拡販、認知向上と同時に導電塗料の使用方法についても分析を進めていく。「導電塗料はまだ使用方法がクローズになっていることも多く、我々でも思いがけない使い方方をされている場合もある。それを分析することで更なる製品開発に生かしていきたい」(篠原社長)と積極的に展開していく意向。